

会議録（概要）

会議名等	平成23年度 第1回四街道市子ども読書活動推進計画策定委員会		
年月日	平成23年5月24日（火）	時間	14:00～16:20
場所	四街道市役所第二庁舎 第二会議室		
出席者	委員 塚本委員 高橋委員 加瀬委員 大野委員 齋藤委員 近委員 仲田委員 横山委員 渡邊義幸委員 金子委員 堀委員 安井委員 事務局 櫻井教育部政策調整参事 石田主幹 志村指導主事 伊藤指導主事		
欠席者	委員 渡辺暢恵委員		
傍聴人	1人		
<p>—— 会議次第 ——</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委嘱状交付 3 教育長挨拶 4 会長・副会長選出 5 会議録の作成について 6 傍聴について 7 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第二次推進計画策定にあたって (2) スケジュールについて (3) 第一次推進計画についての取組、成果と課題について (4) 「読書に関するアンケート調査」の結果について 8 諸連絡 9 閉会 <p>—— 会議要旨 ——</p> <p>会議次第に従い進行 石田主幹</p> <p>事務局：ただいまから、平成23年度第1回四街道市子ども読書活動推進計画策定委員会を開催いたします。</p> <p>【委嘱状交付】</p> <p>3 教育長挨拶</p> <p>木村教育長：平成20年3月に第一次推進計画を策定し、計画期間は5か年。平成23年</p>			

で5年が終わるので、第二次推進計画を策定することになった。
委員の皆様のお知恵をお借りして、しっかりした計画を策定したい。
私も読書は好きだが、なかなか時間がとれない。読書には、人生を豊かにする、想像力をつける等、優れた効用がある。
市内小中学校では、全校で読書タイムを実施している。千葉県は「朝読」発祥の地で、県も「読書県千葉」を目指している。本市でも、子どもたちが「朝読」に取り組んだり、先生方がいろいろな取組をしたりしてがんばっている。今後、ますます推進していくよう、行政としても努力したい。財政的には厳しいが、各校の蔵書率を上げていきたい。
子どもたちの読書活動推進に向けて、協力をよろしくお願いします。

4 座長・副座長選出

事務局：続きまして、本策定委員会の会長及び副会長の選出をお願いしたいと思いますが、その間の座長を教育長が務めさせていただくということで、よろしいでしょうか。

委員：異議なし。

事務局：それでは、座長は、木村教育長をお願いしたいと思います。

木村教育長：それでは、会長及び副会長が選出されるまでの間、座長を務めさせていただきます。

四街道市子ども読書活動推進計画策定委員会の会長及び副会長は、策定委員会設置要綱第4条の規定により委員の互選により定めることとなっておりますが、いかがいたしましょうか。

委員：事務局一任。

木村教育長：ただいま事務局一任との発言がありましたが、いかがでしょうか。

委員：異議なし。

木村教育長：では、異議なしということなので、事務局の案を報告してください。

事務局：それでは、会長は南小学校校長の塚本幸男様、副会長を東京学芸大学非常勤講師渡辺暢恵様をお願いしたいと思います。

木村教育長：ただいま、事務局から案が示されましたが、いかがでしょうか。

委員：異議なし。

木村教育長：では、異議なしということですので、会長を塚本幸男様、副会長を渡辺暢恵様をお願いしたいと思います。それでは、塚本幸男様、会長席にお座りいただいて、一言ご挨拶をお願いしたいと存じます。

塚本会長：第一次推進計画では、「すべての子どもに読書の喜びを」とした。読書を楽しむにしてくれる子どもが増えてほしい。読書は人生にとってかけがえのないもの。委員の皆さんと一緒に全力を尽くしたい。

学習指導要領の改訂で、国語の教科書の中の読書の紹介が増えた。学校図書館に全部買おうと思っても買うことはできないが、段階的に充実させていきたい。

副会長の渡辺暢恵先生の本です。とても実践的に書かれていますのでご紹介します。

木村教育長：私は、これで座長の職を終わらせていただきます。願わくば、県内に何市あるかはわかりませんが、5本指に入るような計画、取組を期待しています。

事務局：なお、教育長ですが、この後、公務がありますので、これにて退席となります。

5 会議録の作成について

塚本会長：会議に入る前に、議事録の記載の仕方について確認をお願いします。会議録における発言者名については、「審議会等の会議の公開に関する指針の解釈運用基準」の規定により原則として明記することとなっておりますので、本策定委員会においても明記する取扱いとしたいと存じますが、委員の皆様のご意見をお伺いします。

委員：異議なし。

塚本会長：それでは、発言者名を明記することといたします。他に議事録について何かございますか。

事務局：会議録作成のため会議内容を録音したいのですが、よろしいでしょうか。

塚本会長：録音についていかがいたしましょうか。

委員：異議なし。

塚本会長：録音は行って結構です。他に会議に先立って、何かございますか。

6 傍聴について

事務局：本日は傍聴希望者が1名いらしております。

この会議は、「四街道市審議会等の会議の公開に関する指針」により原則として公開となっておりますが、会議の公開・非公開の決定は、会長が委員会に諮って決定することとなっておりますので、会長よろしくお願いたします。

塚本会長：委員会に諮ってということですが、本委員会の議題となる内容は、公開することにより公正かつ円滑な議事運営に著しい支障が生ずるとは、認められませんので、公開としたいと思っておりますが、委員の方々いかがでしょうか。

委員：異議なし。

塚本会長：特に異義がないということでございますので、公開といたします。傍聴者の方はどうぞお入りください。

【傍聴人 入室】

7 議題

(1) 第二次推進計画策定にあたって

塚本会長：それでは、議事に移ります。議題の1点目「第二次推進計画策定にあたって」事務局から説明をお願いします。

事務局：先ほど「読書県千葉」というお話があったが、県では第一次推進計画を平成15年3月に、第二次推進計画を平成22年3月に策定している。また、平成22年度は「国民読書年」でもあった。

本市では、平成19年から23年までの5年間の計画として第一次推進計画を策定した。お手元の資料（第一次推進計画）をご覧ください。家庭、地域、図書館、公民館における子どもの読書活動の推進、学校等における子どもの読書活動の推進、子どもの読書活動を促す図書館間の連携という内容で策定した。今年度が最終年度で、これからの5年間の計画が第二次計画になる。第2次推進計画は、本市の実情にあったものとしたい。背伸びをしすぎたものではなく、実態に合った実行性のあるものとしたい。また、第一次推進計画の課題をもとにして、第二次推進計画を策定していきたい。

策定にあたっては、作業部会を設けている。本日の会議要項の中にある子ども読書活動推進計画策定委員会の設置要綱をご覧ください。作業部会は補助組織であり、計画の策定に関する資料収集や素案の作成を行う。

予算については、この計画に係る印刷製本費はないので、第二次計画については、事務局が手刷りしたり、ホームページで公開したりしていく。広く頒布するために、ダイジェスト版を作成するかもしれない。

塚本会長：ご質問、ご意見はありますか。

実行性のあるもの、実情にあった計画を、というお話でした。

これから示される第一次計画の振り返り等が、四街道市の実情を示すものとなると思います。質問等なければ、先に進みます。

(2) スケジュールについて

塚本会長：議題2点目「スケジュールについて」、事務局から説明をお願いいたします。

事務局：スケジュールについて説明

※子ども読書活動推進計画策定スケジュール（案） 参照

塚本会長：ただいまの説明に対して、質問等がございましたらお願いいたします。

金子委員：半年で計画を策定するというので、大事なものは第2回の策定委員会になると思うが、素案については策定委員会の前に事前に配布されるのか。

事務局：事前に配布するようにします。委員の皆さんに事前によく読んでいただいて

から第2回に参加していただけるようにします。

金子委員：計画を策定していくにあたっての考え方についての討論はいつするのか。

塚本会長：計画の中心となる考え方ですね。何を目標にして、どんなキャッチフレーズにして、というような。この委員会で委員の皆さんからご意見をいただいたことが重要になってくると思う。今日の議題のどこで意見をいただいたらよいか。

事務局：議題（3）（4）の中でご意見をいただきたい。

塚本会長：素案の配布の目安は？

事務局：第2回策定委員会の10日ぐらい前には配布できるようにしたい。

（3）第一次推進計画についての取組、成果と課題について

塚本会長：議題3点目「第一次推進計画についての取組、成果と課題について」、事務局からの説明をお願いいたします。

事務局：資料をもとに説明

※第一次推進計画についての取組、成果と課題 参照

塚本会長：第一次計画の4つの基本方針の具体的な取組について説明がありました。質問等がございましたらお願いいたします。

金子委員：四街道は、よく取り組んでいると思う。

資料の4ページから6ページが印象深かった。学校で具体的な数値目標を掲げたり、読書の記録をつけたりという部分。四街道市は「子育て日本一」を掲げているが、仮に日本一を目指す場合、どんなことが「読書の日本一」なのか。

ある程度具体的な数値目標があった方がよい。分かりやすい目標があるとよい。

学校図書館指導員については、取組を市内で共有できるようにしてほしい。モデルスクール等の取組を共有するとよいのではないか。

中学校に入っているボランティアが少ない。学年が上がるとだんだん読書量も減るようなので、活性化させるために働きかけが必要である。

家庭の状況に差があることも気になる。小さい頃から読み聞かせをしてもらうと、習慣がつくのではないか。親がどう関わるとよいのか。

仲田委員：「すべての子どもに読書の喜びを」という取組の中で、学校現場でも子どもたちが本を読むようになったと感じている。

市川市で25年ほど前に働いていたが、市で「子どもを読書好きにしよう」という取組をしていた。その頃からシステム化されていた。システム化を図った後は、「学習活動の中での図書館の活用を図る」（自分で調べて考えをまとめる）ということに重点を置いていた。今でも、市川市はとても取組の進

んだ市のひとつである。

四街道市では、学校によって差はあるが、小学生一人当たり年間30冊以上読んでいて、本好きの子どもが増えている。

図書館の活用の仕方学校によって差があるが、学校図書館は学習資料センターであるべき。学習資料センターとしての在り方についても、市として方針を出すと思う。

中学校では学校図書館がなかなか活用されない。中学生になっても、学校図書館がどんどん活用されるようになるとよい。

システム化については、小学校では便利な反面、雨の日の休み時間等、貸出数が増えて大変なこともある。中学校ではあまり学校図書館が活用されていないようだがシステム化は必要なのだろうか。

塚本会長：アンケートの結果を見ると、中学生になっても読書は好きなので、働きかければ利用するようになるかもしれない。

安井委員：アンケート結果から、中学生高校生になっても、本好きは変わらないことがわかる。自分の子どもは、小学生のころはよく本を借りてきたが、中学生になってからは借りてこなかった。でも、本は好きで、自分の好きな本を本屋で選んで買っていた。

学習指導要領が変わって、小学校1年生でも、教科書で紹介されている本が70冊とのこと。教育出版の教科書で紹介されている本を見ると、以前からある本が多い。図書館では、教科書で紹介されているすべての本をそろえてほしい。

図書館の「お話し会」は同じ曜日の同じ時間に開催されているので、予定が合わないと行けない。また、読み聞かせをする時間をとるのが難しいとのことだが、図書館ではボランティアの活用は考えていないのか。

長野県のホームページに新刊の案内がのっていた。ボランティアも新刊の情報を求めている。県の図書館と連携して、市の図書館のホームページにもものせてほしい。書名だけでなく、簡単な内容ものせてほしい。

広報については、「読書の日」などの読書の記念日をイベント化すると子どもたちの興味をひくのではないか。

塚本会長：中学生については、学校図書館の本の選定も課題として挙げることができそうです。

堀委員：現在、中学校で読み聞かせをしている。どの学年でも子どもたちはよく聞いてくれる。「読み聞かせは、どこでも、誰にとっても、楽しいものであるべき」という思いで本を選んでいる。

ボランティアの思いと学校側の思いの温度差があるように感じる。でも、実際に活動してみると、子どもたちも先生方も反応が良かった。

子どもたちは小さな頃家庭で本を読んでもらい、小学校でもボランティアの読み聞かせを聞いている。本に触れる時間がずっと続いているので、それをどう中学生までつなげるかだと思う。

読書タイムについては、市内のすべての学校でやっているとのことだが、中には読書タイムをドリルの時間にしてしまう先生もいる。「朝読」を始めた先生は、「みんなで読む」ことが大切と言っているが、「みんな」とは先生も含んでいる。先生も一緒に読むことが大切だと言っている。学習内容が増えて大変ということもあると思うが、読書は子どもの心を育てるものである。

この会議で読書の大切さをアピールしていけたらよいと思う。

塚本会長：「温度差」について、詳しく聞かせてもらえますか。

堀委員：学校に「事前にプログラムを出してください。」と言われた。「ボランティアが子どもたちに読んであげたい本を選んだらいけないの？」というボランティアの思いがある。気軽にボランティアに入れるようになるとよい。

塚本会長：読み聞かせは、「人との出会い」も魅力。学校の先生ではない人から読んでもらう良さがある。

加瀬委員：中学生も本を読むことは好きである。

小学校の時はたくさん本を読んでも、中学生になって運動部に入ったり、塾に行ったりすると、ゆっくり本を読む時間がない。

学校で、朝の会が始まってもまだ本を読み続ける子や、休み時間に教室で自分の持ってきた本を読む子もいる。

本好きの子どもが減っているという印象はない。

(4)「読書に関するアンケート調査」の結果について

塚本会長：議題4点目「読書に関するアンケート調査の結果について」、事務局からの説明をお願いいたします。

事務局：資料をもとに説明

※読書に関するアンケート調査結果 参照

アンケート結果を見て、作業部会でも意見をまとめた。今後の課題としては、読書量は子どもによって差があると思われるため、どの子どもにも読書習慣を身につけさせること、関係機関の連携を深めること、「図書館からの情報提供を」という声に応じていくこと等が挙げられる。

塚本会長：アンケート結果から、方向性や課題が見えてきました。すぐに基本方針をまとめることはできないが、アンケート結果からのご意見、または委員の皆さんの読書観等お話ししてもらいたいと思います。

金子委員：子どもたちに「なぜ読まないのか」「どうしたら読みたくなるのか」という質問をしてもよかった。

塚本会長：子どもは、教科書は読みたくないが、マンガは読む。難しい字があっても、マンガにはルビがついているから読むことができる。どんどん読むうちに難しい字も覚えてしまう。教科書にはルビはついていない。

齋藤委員：保育所で0歳からの子どもを預かっている。赤ちゃんでも本は好き。言葉がまだわからない赤ちゃんも本を見せると喜ぶ。

保育所では子どもを長く預かるので、読み聞かせの機会も多く、子どもたちも読み聞かせを聞いて喜んでいる。

保護者から「こんな赤ちゃんにどんな本を読んであげたらいいの？」という質問をされることもある。

幼稚園・保育園は、絵本に会うきっかけの年齢。小さい頃から本に親しむことが大切。読み聞かせをたくさんしてもらっている子どもは、本を見せた時の集中力が違う。

中学生など、今、本を読む時間がなくとも、時期が過ぎれば好きな子はまた本に戻っていくと思う。

これから、子どもたちの読書活動の推進のために、いろいろなところと連携していかなければと思う。

安井委員：乳幼児健診で本の情報提供をしているところをニュースで見たが、四街道市ではしているのか。

事務局：現在のところ、していない。

渡邊委員：読書との出会いは、文化との出会いであり、生涯学習へつながる。

学校教育では、学習指導要領に定められたことをやっていくが、家庭での取組は家庭によって違ってくる。

この会議で、いろいろな方からお話を聞くことができ、大変参考になった。数値目標はあったほうが良いと思うが、基準をどうしたらよいか等、この会議で皆さんからうかがっていききたい。

推進計画策定後も、このような会議で引き続き意見をうかがっていくことは必要であると思う。

塚本会長：私も、計画策定後も、このような会議は必要だと思う。

数値目標については、数値化してわかりやすいもの、数値化しにくいものの両方があると思う。

大野委員：幼稚園に勤めている。勤務している幼稚園では、3歳から5歳までの子どもを縦割り保育している。食事が終わった後に自由に本を読むことができるようにしている。5歳児が3歳児に本を読んであげる姿が見られる。親と子のつながりも必要だが、子ども同士のつながりもあって良いと思う。

自分が中学生の頃、上級生が教室に来てくれてマナーを教えてくれる時間があつた。上級生が下級生に本を薦める時間があるといいのではないか。

塚本会長：本を介しての子ども同士のやりとりは大切である。「学び合い」も良い方針であると思う。

子どもが親に長編の物語を聞かせるという取組も聞いたことがある。

仲田委員：小学校では、図書委員会が小さな子に読み聞かせをしたり、パネルシアターをしたりという取組をしている。

低学年の子どもが学校図書館でハリー・ポッターを借りていく。親が読みたいので借りてくるよう頼まれたとのこと。図書日よりで本を紹介すると、親も読書に関心を持つようになる。親子の会話につながる。学校図書館からの情報発信の大切さを感じる。

塚本会長：中学校の学校図書館は、親も読みたい本がたくさんある。

高橋委員：小学校では、低学年の子どもは、週1回学校図書館に行く時間がとれる。本と触れ合う機会となっている。その時に、学校図書館指導員の読み聞かせを聞いている。

今年は、子どもたちに図書の選定をさせてきょうかと思っている。子どもたちの読みたいと思う本を購入したい。

読書タイムのたびに学校図書館に本を借りに行くのが大変である。教室に本があるとよいが、教室に本を持って行ってしまうと、学校図書館の本が少なくなってしまう。

横山委員：図書館では、限られた予算の中で本を選んでいるため、子ども用のみの予算配分というわけにもいかない。

図書館の「お話し会」等の事業の日程については、年度ごとに曜日を変える等、工夫していきたい。

近委員：学校支援ボランティアとして、どこの小学校にも読書ボランティアは入っていると聞いている。ボランティア同士の横のつながりがないので、情報交換の場がもてたら良いと思う。読書の推進にもつながるのではないか。

中学生に時間がないのは、部活動で忙しいから。子どもは、忙しい中でも、友達や先輩、先生方から本に関する情報を得ている様子である。先生方からの働きかけも有効だと思う。

親世代も一緒に巻き込んでいけるような取組ができるとよい。

アンケート調査はとても役に立つ。アンケート調査の結果をもとに、課題をクリアするアイデアをこの会議で出せたらよいと思う。

塚本会長：1年後、2年後に、またアンケートをとることができると、市の取組の効果がわかる。アンケート調査は大切な資料である。

金子委員：現在も子どもたちは本を楽しく読んでいる。第2次推進計画では、子どもたちが本を読んでいるのが当たり前前の四街道市になるように、取組を考えていけるとよいのではないか。

予算はなくとも、アイデアで勝負していきたい。限られた中でも工夫はできるので、その工夫を第2次推進計画に入れていけるとよい。

P D C Aが大切であると思う。計画策定後、どのように取り組まれているかをこのような委員会で見ていく必要がある。計画を作りっぱなしではいけない。

塚本会長：第1次推進計画策定の時に、「四街道市がひとつの大きな図書館に」という思いがあった。いろいろなところが営業所で、図書館でないところでも、例えば「お店等にもちょっとした本のコーナーがある」というようになるといいと思っていた。

事務局には、委員の皆さんの意見を生かして素案を作ってほしい。

議題はすべて終了しました。

8 諸連絡

事務局：次回の策定委員会の連絡をさせていただきます。開催日時は7月25日（月）14時からを予定しております。会場は、本日同様、この場所で行いますので、よろしくお願いいたします。

2点目ですが、委員の承諾書につきまして、記入していただき、提出をお願いいたします。

9 閉会

塚本会長：では、これで第1回子ども読書活動推進計画策定委員会を終わりにします。長時間にわたりましてありがとうございました。